

# 校長だより

～ホップ・ステップ・ジャンプだ～

平成 22 年 12 月 7 日

沖縄県立読谷高等学校

校長 與那覇 健勇

「新米校長で教頭経験のない私がどうやったら少しでも学校運営がうまくいくか。何かアドバイスをお願いできませんか」

私は読高に赴任する前の日に尋ねました。N 先生曰く、「雨の日も風の日もただただ、朝の 7 時から校門で生徒を迎えなさい」

「他には？」

「それだけです」 「えー」

4 月から 12 月まで言われた通り、それだけ実行してきました。

登校時の生徒の姿に携帯電話やスカート丈の短い生徒は一人も見られないことにまず驚きました。ここまで徹底して指導してきた先生方が凄いなと思いました。他の学校ではみられない光景が本校では普通になっていました。教頭とともに毎朝、校門で生徒を迎え、できるだけ生徒の名前を覚えようと生徒用顔写真ファイルを見ていました。生徒は名前と呼ばれて挨拶されると間違いなく「にこっ」としたなんとも言えないいい表情であいさつを返します。送迎のお母さん、お父さんの顔も覚えました。必ず時間どおりに所定の場所で車から生徒を降ろすことにも法則性があり習慣化されています。現在のところ全生徒 959 名中の 3 分の 1 にあたる約 300 名の顔と名前は覚えました。また、ゼロ校時の先生や部活の朝練指導の先生、早く出勤なさる先生の車の車種とナンバー等もついでに覚えてしまいました。学校中の車は誰の所有であるか校長が一番よく知っているでしょう。何を隠そう、私は無類の車好きなんです。

考えてみると、学校という組織の中で何かの縁でいあわせた様々な人のたゆまぬ努力があってこそ充実した教育につながっているものだとの思いを日々強くしています。すべてに感謝したいです。

「校長による授業」も全 24 クラスで実施することができました。生徒の感想を読んでいると生徒たちの校長に対するにくいばかりの心使いに満ちた文章に接することができ、改めてこの子らはほんとうにダイヤモンドの原石だなあとの感を強く持ちます。どの生徒も人のために尽くそうとの思いがにじみ出ているように思います。このような生徒を励まし、育てているこの学校の校長であることに幸せと誇りを感じます。

2010 年は特別な年でした。美ら島沖縄総体。60 周年記念式典・祝賀会。どちらも読高にとって素晴らしい締めくくりができたと喜んでいきます。さらに、渡口竜次監督率いる男子ソフトボール部は全九州秋季ソフトボール大会で初となる優勝をもたらしました。今、読谷高校はまさに九州はもちろん全国にその名を轟かせています。ソフトボールに代表されるだけでなく「文武両道」できらりと光る沖縄の読谷高校ここにありの精神で、職員・生徒・PTA とともに力を合わせて頑張っていきたいと強く願っているところです。